



若沖は
われらと
同時代人
である。



若沖

じゃくちゆう

JAKUCHU

東日本大震災復興祈念 伊藤若沖展



2019 国内外よりのべ約100点展示

3/26火 >>> **5/6**月祝

開館時間 9:30~17:00 [入館は16:30まで]
休館日 毎週月曜日 [4/29日祝・5/6日祝は開館]

福島民友新聞社創刊125周年事業・福島中央テレビ開局50周年事業
主催 / 東日本大震災復興祈念「伊藤若沖展」実行委員会
[福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、福島民友新聞社、福島中央テレビ]

協賛 / JAグループ福島、東北電力、郡山女子大学、郡山女子大学短期大学部、福島トヨタ自動車、ベスト学院、東邦銀行、リコージャパン
特別協力 / 公立大学法人福島県立医科大学、東日本旅客鉄道(株)
後援 / 福島市、福島市教育委員会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県観光物産交流協会、福島県市長会、福島県町村会、福島県芸術文化団体連合会、福島県文化振興財団、福島県小学校長会、福島県中学校長会、福島県高等学校長協会、福島県私立中学高等学校協会、福島県特別支援学校長会、福島県都庁教育長協議会、福島県市町村教育委員会連絡協議会、福島県町村教育長協議会、福島県PTA連合会、福島県高等学校PTA連合会、福島県特別支援学校PTA連合会、朝日新聞福島支局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、日本経済新聞社福島支局、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、NHK福島放送局、ラジオ福島、福島テレビ、福島放送、テレビユー福島、ふくしまFM、RAB青森放送、テレビ若手、ミヤギテレビ、ABS秋田放送、山形新聞・山形放送
TenYテレビ新潟、一般社団法人東北観光推進機構
協力 / 福島交通(株)、阿武隈急行(株)、(株)福島まちづくりセンター
企画 / Hata International

 **福島県立美術館**
Fukushima Prefectural Museum of Art
〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地 TEL.024-531-5511 <https://art-museum.fcs.ed.jp>



若冲

じやくちゆう

JAKUCHU



伊藤若冲(1716-1800)は、江戸中期、京都に生まれた画家です。緻密な線描と極彩色の作品を手がける一方、伸びやかで自由な筆遣いとユーモラスな表現が特徴的な水墨画を数多く残しました。2013年、福島県立美術館では、プライスご夫妻のご協力のもとに「若冲がきてくれました」展を開催しました。本展では、前回とは異なった視点から国内外の作品約100点を展示し、再び若冲芸術の魅力をご紹介します。感動と喜びを通して心の安らぎとともに生命のエネルギーを感じていただければ幸いです。

伊藤若冲は正徳6年(1716)に、京の中心地にある錦小路の青物問屋の長男として生まれました。本格的に絵を学び始めたのは二十代の後半だと考えられており、隠居して画道に専念するようになったのが四十歳である。若冲の境遇が一変したのは、晩年、天明八年(1788)正月におこった京都大火である。「天明の大火」と人々の口の端にのぼったこの火事により、京の市街地はほとんど焼失。若冲は家もアトリエも失った。焼け出された若冲が大阪方面に避難したらいいことは、大阪府豊中市にある西福寺襖絵のこともあって想像はされていた。若冲の画歴の後期を代表するのは、西福寺の襖絵。その裏面に貼られていた「蓮池図」は若冲そのときの制作と考えられている。それまで、寺院の本堂に「蓮池図」が描かれることはしばしばあるが、その場合は緑青や白緑を使った着色画がほとんどで、このような水墨画は非常に珍しい。「蓮池図」は一本の枯れた蓮(はず)が目を引き寂寥感(せきりょうかん)の漂う作品だが、2011年3月11日の一週間後に改めて実際にこの絵を見たとき、枯れた蓮のわきに白いつぼみがぼっと浮かんでいるのに気がついた。「このつぼみに意味がある。若冲は京都の復興を願っていたんだ」と感じさせる。今回の展覧会を企画するにあたり、若冲が願った復興について考えてみたい。

本展監修者：狩野博幸
(京都国立博物館名誉館員、元同志社大学文化情報学部教授、近世日本美術史家)



関連イベント

講演会

「今を生きる若冲絵画 —「旦那芸」の凄み—」

日時 4/16(火) 14:00~15:30
講師 狩野博幸氏(本展監修者)
場所 美術館講堂
料金 無料

※整理券を当日11:00より講堂前にて配布いたします。

アオウゼ

A・O・Z連携企画レクチャー

場所 A・O・Z(アオウゼ)大活動室1、2
福島市曾根田町1-18 MAXふくしま4階
担当学芸員 担当学芸員
講師 担当学芸員
料金 無料

「伊藤若冲の芸術と生涯」

日時 3月12日(火) 14:00~15:30

「伊藤若冲展 見どころはここ!」

日時 4月23日(火) 14:00~15:30

観覧料(税込)	一般	学生
当日	1,500円	1,100円
前売・団体	1,300円	900円

高校生以下無料

※団体料金は、20名以上で適用されます。
※展覧会の観覧券で常設展もあわせてご覧いただけます。※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方は企画展・常設展とも無料(身障、療育手帳については第1種、保健福祉手帳は1級の場合、付き添いの方1名も無料)※チケット購入の際には、学生証のご提示をお願いします。

前売券の発売は1/8(火)~3/25(月)まで

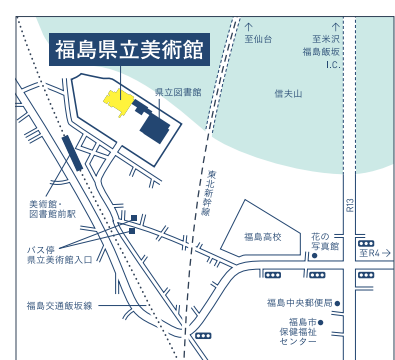
前売券販売所：福島県立美術館、とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)、福島県庁消費組合、福島市役所売店、福島交通飯坂線福島駅・桜水駅・飯坂温泉駅、阿武隈急行福島駅・保原駅・梁川駅・丸森駅・角田駅、中合福島店、うすい百貨店、けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター)、會津風雅堂、喜多方プラザ、ファミリーマート、セブンイレブン、ローソン、福島民友新聞販売店、GNプレイガイド、仙台三越(宮城県)、藤崎(宮城県)、大沼山形本店(山形県)、大沼米沢店(山形県)、やまぎんホール(山形県県民会館)(山形県)、伝国の社 置賜文化ホール(山形県)、茨城県立県民文化センター(茨城県)、水戸京成百貨店(茨城県)、栃木県総合文化センター(栃木県)、FKDショッピングプラザ宇都宮店3F(栃木県)、FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店2F(栃木県)、新潟伊勢丹(新潟県)、日本橋ふくしま館(東京都)、チケットぴあ、イープラス

会期中の展示替えやアクセス情報などについては公式ホームページでご確認ください。

<https://jakuchu.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/Jakuchuten/>
twitter <https://twitter.com/Jakuchu0>

お問い合わせ **024-531-5511** (福島県立美術館)



交通案内／○電車…JR福島駅東口より福島交通飯坂線→「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分 ○バス…JR福島駅東口より福島交通バス9番乗り場から市内循環もりりん2コース→「県立美術館入口」下車、徒歩3分 ○タクシー…JR福島駅東口、西口より約5分 ○車…東北自動車道福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分

●福島交通飯坂線には、期間中、当日券+往復乗車券セットチケット、前売券をお持ちの方に往復乗車割引券があります。●福島駅と美術館、美術館と花見山の間はお得な定額タクシープランがあります。

1.《蓮池図》重要文化財 紙本墨画 六幅 西福寺蔵 2.《菊花図》紙本墨画 一幅 デンバー美術館蔵 Denver Art Museum Collection: Gift of Mrs. James J. Waring, 1971.30 Photo Courtesy of the Denver Art Museum 3.《鶏図》絹本着色 一幅 島根県立美術館蔵 4.《果蔬混装図》重要文化財 紙本墨画 一幅 京都国立博物館蔵 5.《老松鸚鵡図》絹本着色 一幅 個人蔵
表作品:左上《象と鯨図屏風》紙本墨画 六曲一双 MIHO MUSEUM蔵(部分) 左中央《猿猴投月図》紙本墨画 一幅 キンベル美術館蔵(部分) c.1770 114.9×48.4cm AP 2005.01 Kimbell Art Museum, Fort Worth, Texas 左下《蓮池図》重要文化財 紙本墨画 六幅 西福寺蔵(部分) 右上《百丈図》絹本着色 一幅 個人蔵(部分) ※期間中展示替えがあります。

福島県立美術館
Fukushima Prefectural Museum of Art
〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地 TEL024-531-5511
<https://art-museum.fcs.ed.jp>